

# 社会科学学習指導案

日 時 平成 30 年 6 月 19 日 (火)

学 級 2 年 1 組

## 1 単元名

「日本の産業の多様性」

## 2 単元について

本単元は、学習指導要領「地理的分野」の「2 内容」の「C 日本の様々な地域 (2) 日本の地域的特色と地域区分 ③資源・エネルギーと産業 それぞれの地域区分を地域の共通点や差異、分布などに着目して多面的・多角的に考察し、表現すること。」に対応し設定した。世界的な視野から日本を1つの地域として扱い、日本全体の視野から大まかな国内の地域差に着目しながら、日本の国土の特色を理解させる。このねらいを達成するために、今回は「産業」を1つの小単元に設定し、日本の農業・工業・サービス業を様々な視点から考察させることで日本の地域的特色を理解させたい。

戦後、日本の産業構造は、技術進歩と経済成長に伴う消費の変化によって大きく変化している。付加価値額に占める産業の構成割合の推移をみると、第一次産業の割合は1955年の21%から2008年の1.6%まで継続して低下する中で、第二次産業の割合は1955年の36.8%から1970年には46.4%まで上昇した。一方、第三次産業の割合は1955年の42.2%から2008年には69.6%まで上昇し、第二次産業の割合は2008年には28.8%まで低下した。日本は1950年代後半以降、高度経済成長を経て急速に工業化が進展し、第二次産業の割合が大きく上昇したが、1970年代後半以降は、第二次産業の割合は徐々に低下し、代わって第三次産業の割合が高まった。

第一次産業の構成割合は低下するものの、「多様性」というが一つの特徴がみられる。農産物は米に始まり、野菜の品目は41品目、地域特産野菜は40品目、果樹は14品目、花きは切り花が12品目、その他球根類、鉢ものの類、花壇用苗ものの類がある。このように多様化した理由として、まず日本の地形に起因するものと考えられる。日本は島国であり、自分たちで多種多様な作物を育てなければ手に入らない。またキャベツやレタスなどの葉物野菜などは消費者の手に届くまで時間がかかると価値を失ってしまうものもある。このような野菜は時間をかけて輸入することはできず、国内で作られるようになったことが考えられる。また気候に起因することも考えられる。日本は冷帯、温帯、亜熱帯に属し、上述の葉物野菜は冷涼な気候を利用して生産され、その土地の気候に合った作物を生産することが考えられる。また一つの品目でも多種な農産物が生産されていることも特徴であり、例えば日本で生産されている「トマト」はおよそ120種類以上あるといわれ、大きさや糖度による違いで分類されている。トマトは大きく加工用と生食用に分かれ特に健康志向の高まりから生食用のトマトの需要が高まり、高糖度や高機能のトマトの需要が高まり、またサイズも食べやすさやレストランでの切る手間が省けるなどの理由からミニトマトの生産量が増え、ミニトマトの種類が豊富になっている。このように多様な需要に応えるために多種なトマトが生産されていると考える。

第二次産業の多様性を見ると、非常に細かく2200余りに分類されており、全てここに記述できないが、製造業の種類は食料品、飲料、たばこ、飼料、繊維、木材木製品、家具、装備品、パルプ・紙、

印刷、化学工業、石油製品、プラスチック製品、ゴム製品、なめし皮・毛皮製造、窯業、鉄鋼業、非鉄金属製造、金属製品、はん用機械器具、生産用機械器具、業務用機械器具、電子部品・電子回路、電気機械器具、情報通信機械、輸送用機械、その他の製造となっており、非常に多種多様な製品が生産されている。このように多様化した理由として、「他地域との結びつき」と「高い技術力」に起因すると考えられる。日本では資源が採れないために、それを売ることはできない。その資源を輸入し、高い技術力によって高機能な工業製品を輸出することで外国製品との競争をしなければならないのである。また高い技術力を背景に多くの需要に応え多様な製品がつけられていることも特徴と考えられる。例えば「東海バネ」という企業はバネに特化し、宇宙産業に使用するバネや工作機械のバネなど多種多様なバネを作っている。

第三次産業内の構成割合の推移をみると、1950年代半ばから60年代半ばにかけて、卸売・小売業、不動産の割合が上昇し、運輸・通信業も高い割合を示している。第二次産業の構成比が低下し始めた1970年代後半以降は、卸売・小売業や運輸・通信業の伸びも停滞し、代わってサービス業が拡大した。サービス業の拡大傾向は2000年代に入っても続き、第三次産業の割合は2008年には35.9%となった。サービス業とは、広い意味で卸売・小売業や金融・保険業を含めた非製造業全体を指すこともあるが、業種分類では卸売・小売業や金融・保険業以外の業種をサービス業と総称している。このため「狭義のサービス業」と呼ばれることもある。「狭義のサービス業」の具体的な内容は「公共サービス」「対事業所サービス」「対個人サービス」の3つに分類され、このうち「公共サービス」には、教育、研究、医療・保健、介護サービス、その他の公共サービスが含まれる。また「対事業所サービス」は、広告業、業務用物品賃借業、自動車・機械修理、その他の事業所サービス業により構成されている。さらに、「対個人サービス」には娯楽業、飲食店、旅館・その他の宿泊所、洗濯・理容・美容、浴場業、その他の個人サービス業が含まれる。このようにサービス業が多様化してきた理由については、「公共サービス」はその大半が医療・保健、介護サービスであり、国民医療費や介護費が高齢化にともない増加していることが考えられる。これは産業構造の変化というよりも、むしろ社会構造の変化を背景とした動きととらえるべきものである。次に、「対事業所サービス」は企業のアウトソーシングの流れが強まっていることを背景に高い伸びを示しており、代表的な対事業所サービスとその市場規模を見ると、労働者派遣サービス（5.3兆円）法務・財務・会計サービス（2.5兆円）、土木建築サービス（3.7兆円）、建物サービス（6.5兆円）などである。また物品賃借サービス（リース業）も9.8兆円にのぼる。「対事業所サービス」の多様化の理由は、経費の削減が考えられる。それに特化した企業に委託することにより、時間や人件費の削減につながるのである。「対個人サービス」については、高齢化を背景に市場規模が拡大している在宅福祉サービスや有料老人ホーム、共働き世代の需要が拡大している保育サービス、家事支援、さらにエステティック、会員制リゾートクラブ、複合カフェ（漫画喫茶等）、カーシェアリング、ケーブルテレビ、スポーツ施設、カルチャー教室等消費者の嗜好の変化に対応する企業の行動がうかがえる。サービス業が多様化した理由については、高齢化による社会構造の変化、経費等の削減、共働き世代の増加、嗜好の変化、価値観の多様化など様々なことが起因していると考えられる。

そのうえで本単元では、日本の農業・工業・サービス業の特徴は多様性であることを農産物の分布、産業分類などの資料から捉えさせ（事実的認識の第1段階）、それは気候や地形、他地域との結びつき、高い技術力、多様な需要によって多様化したことや日本の気候区分、地形、企業の取り組み、日本輸

出入、企業の取り組み、社会構造の変化、などの資料をつかって産業はなぜ多様化したのか考えさせ日本の地域的特色をつかませたい（事実的認識の第2段階）。本時となる第4時では「日本のサービス業」をとりあげ、多様なサービス業がなぜ成り立つのか、売上高が伸びているサービス業や従業者数が増えているサービス業を上げ、社会構造の変化が読み取れる資料から、それによる多様な需要によって成り立っていることをつかませたい。そして農業・工業・サービス業は地形的要素や社会構造の変化、需要などによって特色づけられることにいたるところにより、世界の諸地域や日本の諸地域に関連付けて考えられるだろう。

### 3 研究主題との関わり

今年度の市教研社会科部会の研究主題は「変貌する未来を切り拓く社会科学習 ～手応えの発見につながる『深い学び』の探求～」である。

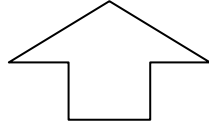
「深い学びとは社会的な見方・考え方はたらかせて、社会事象から得られた知識を相互に関連付けて考えたり、社会に関わるさまざまな課題を見出し解決方法考える等の学習」とある。本単元をつらぬく社会的な事象として、「日本の産業の多様性」をとりあげる。産業が多様である認識を「思考の構造化」において第1段階とし、第2段階として、なぜ産業が多様なのか、人口・地形・歴史・資源・他地域との結び付きの5つの視点と相互に関連付けて考察し、「展開の工夫」にもある「8 根拠を示して説明した場面」とした。また本時の「日本のサービス業」では、資料から推論させる授業を展開し、相互に関連付けて考察させる。また地理的要素や社会構造の変化、需要による多様化は農業・工業にもあてはまることが予想され、第3段階と考えた、「産業はその国、地域の地理的要素や社会構造の変化、多様な需要によって特色づけられる。」と段階的に深まっていくのである。

この第3段階の社会認識はこれからの変貌する未来を切り拓く視点として重要であり、AIやコンピューター、ロボットに仕事にとって変わられるという未来の中で、多くの需要はなくならず新しいサービス業や、新たな産業が産み出せる契機となるのではないだろうか。また上記の視点で生徒が説明したことを、2学年の後期に行う、「日本の諸地域」でも確認することができ、生徒は「確かめてみたい」という内発的な学習意欲を引き出すことにつながると考えた。

#### 4 思考の構造図

この單元における到達すべき事実的認識（第3段階）

産業はその国、地域の地理的要素や社会構造、多様な需要によって特色づけられる。



上の事実的認識に到達するために必要な事実的認識（第2段階）

##### ○農業

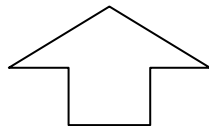
・気候に合った農産物を生産している  
・島国という地形により輸入しづらいため、国内で様々な農産物を作るようになったから。  
・様々な需要によって多くの品種のトマトが作られるようになった。

##### ○工業

・資源がとれないためそれを売ることはできず、原料を輸入し、加工して輸出し、その製品を輸出し他国と競争する必要があるから  
・高い技術力を背景によって多種類のバネを作るようになった

##### ○サービス業

・対事業所サービスはそれにより人材の不足や経費の削減などの需要に応える  
・対個人サービスは嗜好の変化、社会構造の変化などの需要に応える



上の事実的認識に到達するために必要な事実的認識（第1段階）

日本の農業・工業・サービス業は多様である

##### ○農業

・野菜の品目は41品目、地域特産野菜は40品目、果樹は14品目、花きは切り花が12品目、その他球根類、鉢もの類、花壇用苗もの類がある

##### ○工業

・食料品、飲料、たばこ、飼料、繊維、木材木製品、生産用機械器具、業務用機械器具、電子部品・電子回路、電気機械器具、・・・非常に多種多様な製品が生産されている。

##### ○サービス業

・公共サービス、対事業所サービス、対個人サービスと分類され、多様なサービス業がある。  
・今までになかったような新しいサービスが増えている。

## 5 単元の目標

- (1) 日本の産業の多様性に興味を持ち、主体的に調べる姿勢をもつ（関心・意欲・態度）
- (2) 日本の産業の多様性について、その理由をさまざまな視点から考察することができる。  
（思考・判断・表現）
- (3) 日本の産業の多様性について、その理由をさまざまな資料から読み取ることができる。（技能）

## 6 単元の指導計画および評価基準

時間	題材名	評価計画			
		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
1	日本の産業構造	産業の多様性について意欲的に調べ、関心を高めている。		日本の産業構造について、資料から読み取っている。	日本の産業構造について理解している。
2	日本の農業	農業の多様性について意欲的に調べ、関心を高めている。	なぜ多様な農作物を生産しているか、様々な視点から考察している。	なぜ多様な農作物を生産しているか、資料から読み取っている。	
3	日本の工業	工業の多様性について意欲的に調べ、関心を高めている。	なぜ多様な工業製品を生産しているか、様々な視点から考察している。	なぜ多様な工業製品を生産しているか、資料から読み取っている。	
4 本時	日本のサービス業	サービス業の多様性について意欲的に調べ、関心を高めている。	なぜ多様なサービス業が成り立つのか様々な視点から考察している。	なぜ多様なサービス業が成り立つのか、資料から読み取っている。	

## 7 本時の学習計画

- (1) 本時の目標
  - ① サービス業の多様性について、意欲的に調べ、関心を高めている（関心・意欲・態度）
  - ② なぜ多様なサービス業が成立するのか様々な視点から考察している。（思考・判断・表現）
  - ③ なぜ多様なサービス業が成り立つのか、資料から読み取っている。（技能）

(2) 本時の展開

時配 過程	学習内容と活動	指導上の留意点	◆評価 ☆支援の手立て
導入 10分	<p>農業と工業の多様性について復習する。</p> <p>今日はサービス業について学習する 第三次産業について復習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス業は第3次産業</li> <li>・第三次産業国内総生産は増えている</li> </ul> <p>サービス業年間売上高の資料 サービス業の売上高は増えている</p> <p>今までにないサービス業が増えているのではないか</p> <p>サービス業一覧を配り、今までになかったサービス業を探してみる。</p>	<p>多様であり、その理由について簡単にふれる</p> <p>デジタル教科書を使い TVに注目させる</p> <p>TVに映す</p> <p>資料①を配る サービス業一覧</p>	<p>◆評価 ☆支援の手立て</p> <p>☆デジタル教科書利用</p> <p>☆大型TV使用</p> <p>◆サービス業の多様性について、意欲的に調べ、関心を高めている（関心・意欲・態度）</p>
<p>なぜ今までにないサービス業が増えているのだろうか。</p>			
展開 35分	<p>本日は社会の変化から考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①インターネット普及率</li> <li>②共働き世帯の増加</li> <li>③家計の消費支出の変化と内訳</li> <li>④少子高齢化</li> <li>⑤企業の合理化</li> <li>⑥外食・中食の市場規模</li> </ul> <p>各自で考えさせ、自由に周囲の人と話してかまわない</p>	<p>ワークシートを用意し、取り組みやすいように配慮する 話し合う視点を明確にさせる</p>	<p>◆サービス業が多様な理由を様々な視点から考察している。（思考・判断・表現）</p> <p>◆なぜ多様なサービス業が成り立つのか、資料から読み取っている。（技能）</p>

	<p>《発表内容》 このサービス業は資料①～⑥の社会の変化によって増えたのではないか</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>②、④が理由 介護サービスではないか</p> <p>①が理由 道路貨物運送業ではないか</p> <p>③が理由 学習塾ではないか</p> <p>⑤が理由 経営コンサルタント業ではないか</p> </div>	<p>他の人の意見を否定しない なるべくたくさん発表させる。</p>	
	<p>《新しいサービス業の事例》 保育サービスの事例 サニースタッフ どの資料から増えたのか ②、④</p> <p>新しい第2次と第3次の融合 マキタ ⑤</p> <p>《多様な需要に応じて 成功している事例》 ディズニーランド リピート率98%</p>	<p>TVに注目させる</p> <p>資料と関連させ考えさせる</p> <p>資料と関連させ考えさせる</p>	<p>☆大型TV使用</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>多様な需要によってサービス業が多様であり拡大していることにふれ、農業、工業、サービス業の学習を通して考えたことをまとめる</p>	<p>農業や工業も需要によって多様化していることにふれ産業は需要によって特色がみられることにふれる。</p>	

### (3) 本時の評価

- ①サービス業の多様性について、意欲的に調べ、関心を高めているか。(関心・意欲・態度)
- ②なぜ多様なサービス業があるのか様々な視点から考察することができたか。(思考・判断・表現)
- ③なぜ多様なサービス業が成り立つのか、資料から読み取ることができたか。(技能)